

理解する

# 漢文の文構造

アリナエニー研究所  
*ArenaAny Laboratory*

# もくじ

## 第1章 漢文の文構造の概要

1	漢文の文法	4
2	漢文の文構造の特徴	4
3	本書の構成と使い方	5
第2章 基本的な文の構造		
1	主述構造	6
2	主題	7
3	単純否定	8
4	助動詞	9
5	副詞	10
6	再読文字	10
7	前置詞句	12
8	目的語	13
9	前置詞句による目的語の強調	14
10	補語	15
11	接続詞「以・而」	16
12	単文の構造	17

## 第3章 複雑な文の構造

1	無標識の従属節	18
2	助詞「之」による従属節	19
3	「者」による関係節	20
4	「所」による関係節	21
5	存在文の構文	23
6	形容詞文の構文	25
7	「以為」の構文	26
第4章 句法と文構造		
1	二重否定(1)	28
	「不・無・非」の組み合わせ	
2	二重否定(2) 助動詞と動詞の否定	29
3	二重否定(3) 副詞と動詞の否定	30
4	部分否定	31
5	禁止	31
6	使役	32
7	受身	33
8	比較	34
9	仮定・譲歩	35

10	限定……………	36
11	疑問文の基本的な構造……………	37
12	動詞文における「何」の機能……………	38
13	目的語の「何」……………	38
14	副詞の「何」……………	39
15	修飾の「何」……………	39
16	前置詞の目的語の「何」……………	40
17	「何如」(状態を問う)……………	41
18	「奈何」(対処方法を問う)……………	42
19	状態を問う「何如」と 対処方法を問う「奈何」のまとめ……………	43
20	「何如」「奈何」の 副詞句としての用法……………	43
21	名詞述語としての「何」……………	44
22	「安」「豈」「誰・孰」の機能……………	45
23	「幾」の機能……………	46
24	疑問文の意味 (問い・反語・詠嘆・推量)……………	47
25	反語の表現……………	48

索引

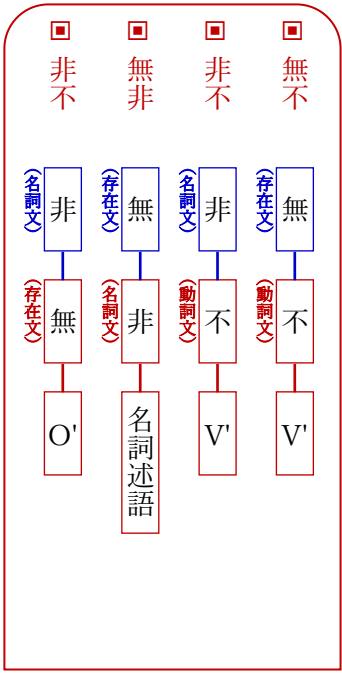
26	詠嘆の表現……………	49
27	抑揚……………	49
28	移動・倒置 (1)……………	50
29	移動・倒置 (2)……………	51
第5章 故事		
1	推敲……………	53
2	朝三暮四……………	55
3	守株……………	60
4	矛盾……………	62
5	蛇足……………	64
6	借虎威……………	69
7	嬰逆鱗……………	72
8	先從隗始……………	74
	索引……………	81

# 第4章 句法と文構造

本章では、漢文句法として知られている文の構造を文法的に説明します。

## 1 二重否定(1) 「不・無・非」の組み合わせ

△ポイント△



「不、無、非」を組み合わせる二重否定は、主節が存在文か名詞文であり、従属節が主節と異なる種類の文で構成されます。強調したい内容は従属節の内容となります。

### □ 「無不」(存在文+動詞文)

おイテニ キザル とほサ  
於<sub>レ</sub>物 無<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>陷也。

物に対して／ない／突き通さないことが

P 於物 無  
V O  
不 陷也。  
否定 V 助

△構造△ 主節である存在文が「無」で否定され、従属節である動詞文が「不」で否定されます。従属節「不陷」は、主節の動詞「無」の目的語です。

△書△ 物に於いて陥さざる無きなり。

△訳△ どんなものに対しても突き通さないことはない。

### □ 「非不」(名詞文+動詞文)

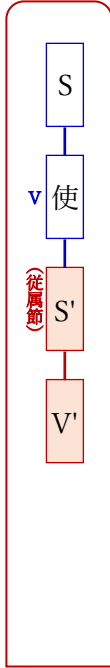
あらザルザルニ にくマ さむキヲ  
非<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>悪<sub>レ</sub>寒也。

ではない／嫌がらない／寒さを

非 不 悪 寒 也。  
否定 V O  
助

## 6 使役

△ポイント▽



使役は、動詞「使」の後ろに従属節が置かれた構造と考えることができます。「従属節の内容を実行させる」という解釈になります。従属節が複数になることもあります。

### □ 「使」

てんていしむヲシテタラニ  
天帝使<sub>三</sub>我<sub>三</sub>長<sub>三</sub>百獣<sub>二</sub>。

天帝はさせた / 我が／百獣に対し長となることを



《構造》使役の動詞「使」の目的語として、従属節「我長百獣」が続きます。天帝が「私が百獣の王になる」ということを実行させたと解釈できます。訓読では、

使役の相手を明確にするために従属節の主語に「ヲシテ」と送り仮名をつけ、従属節の動詞の後に「使む」を読みます。

《書》 天帝 我をして百獣に 長たらしむ。  
てんてい いわれ ひやくじゅう ちやう

《訳》 天の神が私を百獣の王にした。

### □ 「命」

めいじつテニ  
命 故人書<sub>レ</sub>之<sub>。</sub>

命じた／親友に／これを書き写す ことを



《構造》「命」も、使役の意味もっています。主節の動詞「命」の目的語として、従属節「故人書之」が続きます。従属節の実行を命じたと解釈できます。訓読では、従属節の動詞「書」に使役の送り仮名をつけて「書せしむ」と読みます。

《書》 故人に命じて之を書せしむ。  
こじん めい これ しよ

《訳》 親友に命じてこれを書き写させた。

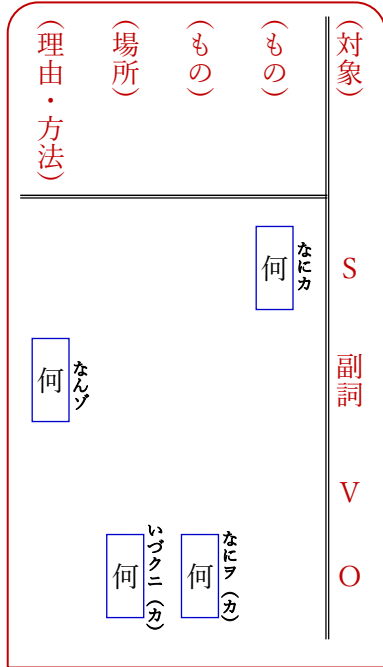
《構造》文末に助詞「乎」が置かれて、疑問を表します。

《書》 足るか。

《訳》 足りるか。

## 12 動詞文における「何」の機能

△ポイント▽



「何」には複数の意味と読みが存在します。これは、文中での機能の違いによるものです。

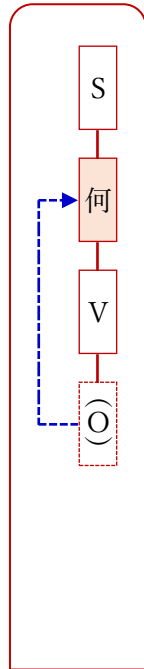
「もの」を表す目的語の場合には「なにヲ(カ)」と読み、場所を表す目的語の場合には「いづくニ(カ)」

と読みます。

副詞の場合には、理由・方法を表し、「なんゾ」と読みます。

## 13 目的語の「何」

△ポイント▽



英語では疑問詞が文頭へ移動しますが、漢文では、疑問詞が目的語である場合に動詞の前へ移動します。

### □ 「もの」を表す「何」

其何憂何懼。  
ソレヲカウレヘヲカオソレン

いったい／何を心配し／何を恐れるのか

其何憂何懼。  
助 O V O V

《構造》二つの動詞「憂」と「懼」が「何」を目的語